JRVA通信

「JRVA通信」は、日本RV協会（JRVA）に所属している会員の方々やそのユーザーさんの投稿によってつくられるページです。
キャンピングカーに対する積極的な提案や感想、楽しい思い出話がありましたら、ぜひ日本RV協会事務局までにお便り、メールをお送りください。

第二の人生はキャンピングカーから始まった

（ユーザー　大分県別府市在住）
柴田幸治さん

いつも慣れ親しんだ部屋から一歩外に出ると、そこには初めて見る景色。各地にある立ち寄り湯の露天風呂で「ア～」と溜息をつく。感動の一瞬だ。

仕事を終えて家に帰り、妻と一緒に午後10時過ぎに家を出る。ナビに目的地を入力し、後はナビの指示通りに運転すれば必ず目的地に着く。そしてその場で寝る準備をした後、妻と缶ビールで乾杯…至福の一時…。

キャンピングカーに出合ってからは、週末はこんな体験の連続。決して大げさに言っているつもりはありませんよ。

私がアウトドアに目覚めたのは今から約7年くらい前。息子の大学野球の「追っかけ」を妻と2人で始めた頃。その頃はタウンエースのセカンドシートとサードシートを倒して、その上に合板を敷き、またその上に布団を敷いて、積めるだけの荷物を積んで。…これも楽しかった。

私は今年の6月で53歳になります。妻も同い年です。職業は地方公務員。人生の折り返し地点を過ぎ、ゴールが視界に入ってくる中年です。

この歳になると、残された人生をど

う過ごすか、どんな死に方をするか、いつもそんなことを考えながら生活しています。とにかく時間の経つのが早い。

若かった頃は、1日の時間が経つのが遅く「俺、何のために働いてんだろう?」とか「なぜ生きてんだろう?」なんて感じる日が多かったように思います。

今、子育てが終わり、一段落してアウトドアに目覚め、キャンピングカーと出合って私の人生は変わりました。

「週末を楽しみに、週末を有意義に過ごすためには、それ以外の日も真剣に頑張らないといけない」

そう考えるようになったのです。

子供たちも巣立ち、妻と2人だけになり、これからがまさに第2の人生の始まり。人によっては「夫婦2人になって何を話したら良いのか分からない」と言う人もいますが、私たちは違いますよ、今度はどこに行こうかとか、何をしようかとかよく話し合っています。

妻だけでなく職場の部下を連れて日帰りのキャンプに行ったり、部下とのコミュニケーションづくりにもキャンピングカーは活躍しています。

今より若かった頃、よく夫婦喧嘩をしていました。それがアウトドアに目覚め、キャンピングカーに出合って以来その数がどんどん減っていき、今では横に妻がいないと落ちつかないし、楽しくないのです。

「ともに白髪が生えるまで」体が健康である限り、キャンピングカーに妻を乗せていろいろな所へ行きたい。そして「ア～生まれてきて良かった。すべての苦労はこの日のためにあったんだ」と、何度も何度も感じて生きていきたい。そんなことを思いながら毎日を過ごしています。

まったりの旅

（キャンピングカーメーカースタッフ）
田中昭市さん

海外旅行が好きです。DVDプレイヤーも液晶テレビもない我が家ですが、海外旅行には毎年のように出かけます。見たこともない風景やその街独特の香り、おいしい食べ物などまったく違う文化が各地にあって飽きることはありません。

また、親切な現地の人との出会いも楽しみです。ベネチアで腹痛に襲われたときに薬局で身振り手振りを交えてイラストまで描いて症状を伝えましたが、きれいなお姉さんが真剣に対応してくれて、やっと理解してもらえた時はうれしかったですね。普段ならたった一つの単語で伝えられることなのに大変な苦労をする、そういったこともあとから思い出せば楽しい思い出になります。

考えてみると、海外旅行の価値というのは非日常的な体験にあると思います。

まず初めに飛行機に乗ったあとの笑顔の美しいスチュワーデスさんにワインなどを持ってきてもらい、酔いが回ったところから日常生活とは無縁の旅が始まります。チェックインするホテルのロビーも仕事で利用するビジネスホテルとは全然違うし、我が家で食べる冷凍食品加熱料理とは比較にならない立派なフルコースディナーは私にとってはまさに非日常的体験です。

ところで、キャンピングカーの旅はどうでしょうか。

朝、目が覚めたら洗面器で顔を洗い、お気に入りのコーヒープレスでおいしいコーヒーを作る。昨夜コンビニで買ったおいしいパンをほおばりながら、7時になる頃にテレビのスイッチを入れてニュースをチェック。連続ドラマもきちんと見てから外出。こんな具合にキャンピングカーの旅はとても日常的な風景で始まります。

旅の間、車内には一種独特のムードが漂います。何となく独特なのんびりした感じです。最近の言葉でいえば「まったり感」とでもいえばいいのでしょうか。

それは一般的にいえば非日常的であるはずの旅の最中にごく普通の日常生活がドッキングしているからだと思います。キャンピングカーの中にいる限

りそこは勝手知ったる我が家です。ただ、窓から見える風景だけが旅の最中であることを教えてくれます。こんな感覚はほかの交通手段を使った旅ではまず味わえません。キャンピングカーの本領発揮といったところです。

そこで、キャンピングカーの値打ちは日常的生活と非日常的なイベントの融合にあると思うのです。最高の朝日を求めて深夜にキャンピングカーを走らせる。翌朝、布団から抜け出た瞬間に接する素晴らしい日の出。歓声をあげる家族。子供と一緒に喜ぶカミさんの笑顔はあのスチュワーデスよりも輝いている。これこそがキャンピングカーの存在理由だと思うのです。つまり、キャンピングカーは日常生活を輝かせてくれるのです。

寅さんに会おうと決めた

（キャンピングカーメーカースタッフ）
池田健一さん

カーバイトを燃やしたアセチレンガスの匂い。バナナの叩き売りをやっているオジさんが、ねじりハチマキをきりりと引き締める。

「さぁさぁ寄ってらっしゃい、見てらっしゃい。そこのオア兄さん、粋なネェさんも寄ってきな。不老長寿、精力増強の万能食品、新鮮なバナナの大安売り！　1本食べれば、オタクの母ちゃんが20歳若く見え、朝のカラスが鳴くまで寝かせネェってほど精のつく食いもんだ。ほらそこのお爺ちゃん、こいつを3本食べれば、孫より若い子供がつくれるよ、ほら…」

威勢の良い口上に足を止める人たちの輪が広がる。

そのオジさんが、「こちとら、生まれも育ちも葛飾柴又だい…」って叫べば、もう寅さんの世界。懐かしい日本の祭の一こま。

しかし、今、縁日に出かけても、リンゴ飴売りのオジさんも、金魚すくいのオバさんも黙ったまま。バックに流れる音はただのCDプレーヤー。威勢の良い口上なんて、どこからも聞こえない。

探しても探しても、寅さんはいない。

「おーい帰ったで、さくら。俺の2階の部屋、空いてるか？」

寅さんはいつも不意打ちが得意。

バッグ一つの気軽ないでたちで、雪駄ばきの寅さんが現れるたびに柴又の町は大騒ぎ。

シャイで照れ屋のくせに、人の心の中にズカズカ入っていくフーテンの寅さん。ズカズカ入って人を混乱させ、トラブルを起こし、それにもかかわらず誰からも憎まれない不思議な人。

きっと、寅さんの心はいつも空っぽなんだろう。淋しくても甘えがない。怒っても恨みがない。悲しくても女々しさがない。何から何まで、ないないづくし。いつも風が吹きわたっていくような空っぽな心。

「また行ってくるよ」

最後は、寅さん自身が風になって去っていく。

ひなびた海辺の町。古い山すその城下町。流れる汗を拭きながら、寅さんはいつも一人でつぶやいている。

「ケッコウ毛ダラケ、ネコ灰ダラケ。今キタコノミチ通リャンセ。俺を愛してくれる粋なネェちゃんなんて、そのうちどこかで会えますよ…」

人が旅に思いを馳せるときの原点は、ここにあるように思えます。

何を求めるのでもない、何を期待するのでもない。でも、何かが自分を待っているという予感。

同じ事を繰り返す毎日の暮らしのなかで、ふと使い古したバッグに荷物を入れ、ブラっとどこかへ行きたくなりませんか。

昨日まで大事に思えていた荷物をポイと捨て、ガラクタだけを鞄に詰め、不意に出かけたくなりませんか。

「おーい、行ってくるぞ」

「え？　どこへ行くの」

びっくりするカミさんや子供に向かい、あたかも自分が風になった気分で、

「寅さんを探しに行くんだ」

そんな旅に出ようと思っています。
車の中に、役に立たないようなものをたくさん放り込み、気に入ったミュージックだけをセレクトし、いつものシャツに、いつもの靴。
寅さんのように心を空っぽにし、ひたすら夕陽だけを追いかけて。
そして、寅さんを見つけることができたなら、
「2階の俺の部屋、寅さんに貸してやってくれ」
そんなこと言ってみようと思っています。

「身体障害者補助犬」の育成にJRVAも協力

目の不自由な人の生活を助ける盲導犬や、手足の不自由な人の行動を手伝う介助犬など、身体障害者の方々を助けるための「身体障害者補助犬」を育成するには、大変な費用と労力がかかる。しかし、そのことは一般の人にはあまり知られておらず、介助犬そのものに対する理解も深まっていない。そのためキャンピングカー業界の業者15社が中心となり、昨年「補助犬」の育成をサポートするためのキャンペーンが行なわれた。このキャンペーンは、全国の道の駅などでキャンピングカーを使って行われ、募金に協力した人たちには、可愛い犬のイラストが描かれたステッカーなどが配られた。今後はJRVAとしても同キャンペーンを積極的に応援していくことを決定している。

女性デュオ梅星が歌う「くるま旅」の歌

JRVAが提唱しているくるま旅のイメージソングがあるのをご存知？
福岡を中心にライブ活動を行っている女性デュオ梅星（うめぼし）が歌う「くるま旅」がそれ。「自由に、きままに風まかせ、好きなときに、好きなところへ…」という、まさにキャンピングカー旅行の特徴を巧みに語っている。
この歌を収録したCDも好評発売中。
JRVA主催のイベントでライブ演奏を行う機会もあるので、見かけた人はぜひ声援を。

2005年1月15日発行
発行　日本RV協会 (JRVA)
〒194-0022 東京都町田市森野1-10-10
ペアシティエンドウビル2-A
Tel. 042-720-7911　Fax. 042-720-7251
http://www.jrva.com
E-mail : office@jrva.com
編集　株式会社 自動車週報社
印刷　図書印刷 株式会社
《無断転載を禁ず》